

2015年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、ヨーロッパ～中央アジアや太平洋～北米で波列パターンが明瞭となり、カナダ東部、ロシア西部、ベーリング海で正偏差、カナダ西部、ヨーロッパ西部、中国西部、日本付近～その東海上では負偏差となった。ユーラシア大陸南部から日本の東海上にかけての偏西風は、全体的に平年と比べて南寄りを流れた。帯状平均した対流圏の気温は、北極域と60°S以南を除く広い範囲で高温偏差となり、特に熱帯域で顕著となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、日付変更線西側の赤道域～太平洋中・東部の5°N帯で活発、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月を通して不明瞭だった。対流圏下層では、太平洋西部～中部で南北半球対の低気圧性循環偏差となり、赤道域で西風偏差が卓越した。インド洋のモンスーン循環は、平年と比べて弱かった。対流圏上層では、太平洋西・中部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は-1.6だった。

世界の天候

2015年9月の世界の月平均気温偏差は+0.50°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.63°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

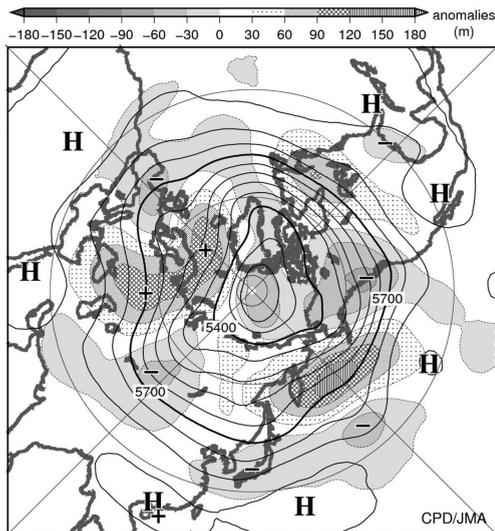
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ロシア南西部～ヨーロッパ南東部、米国の広い範囲で異常高温となった。
- カリブ海東部周辺～南米北部では異常高温・異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

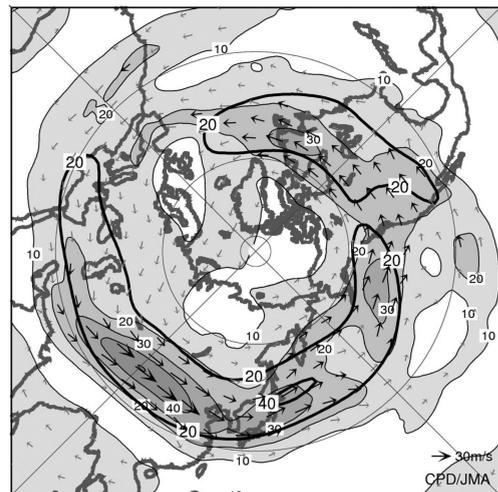
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



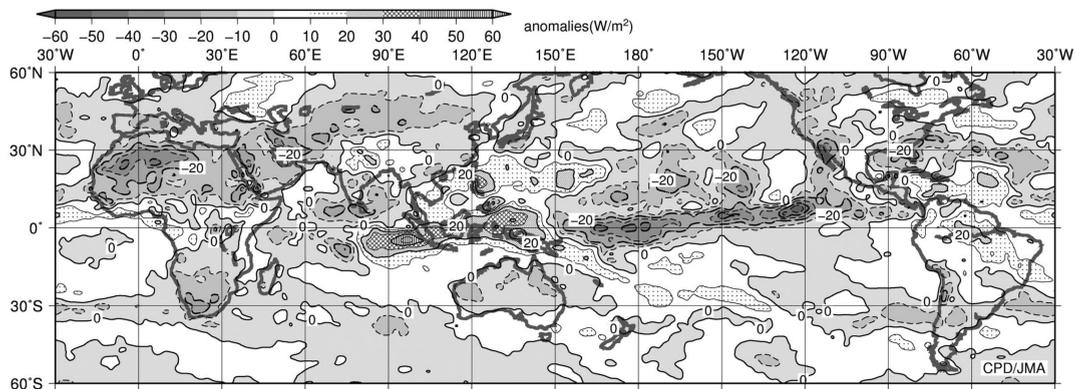
2015年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

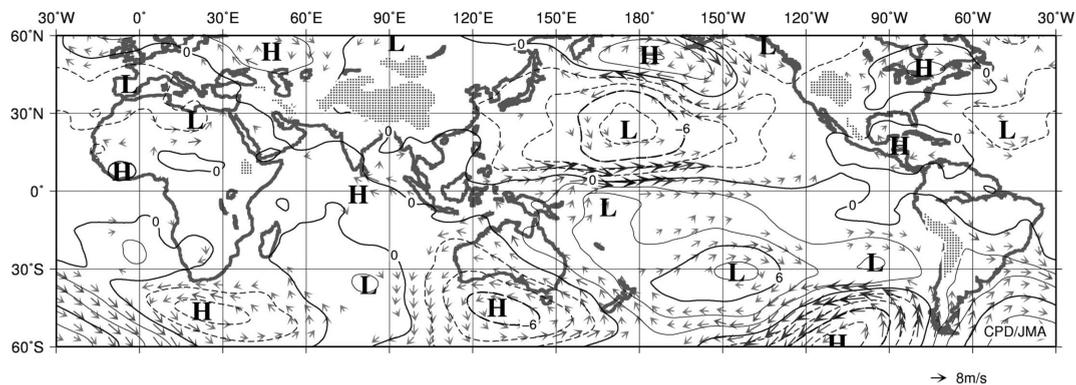


2015年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

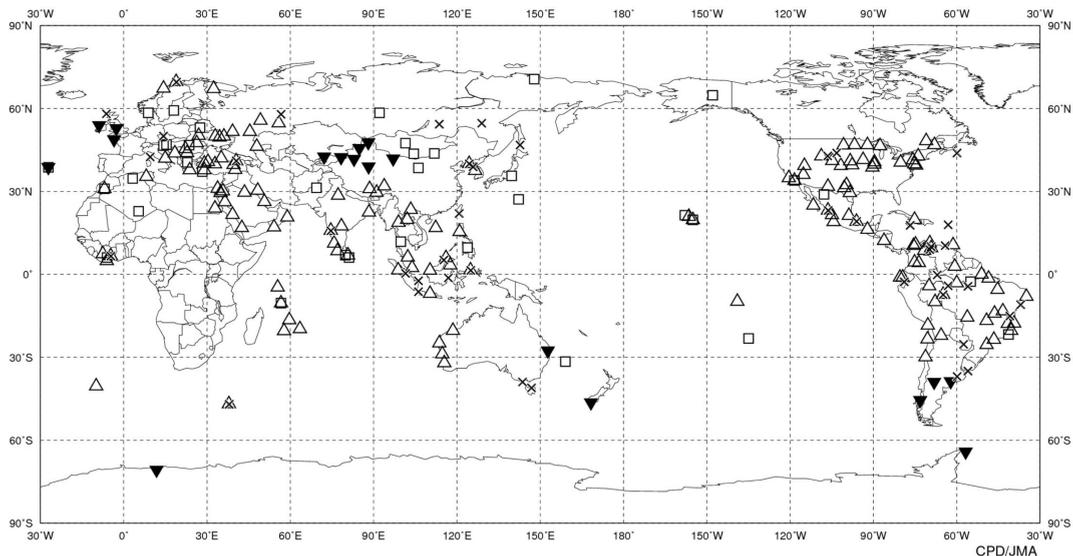
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は2×10⁶m²/s。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。